

福生市子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書 (概要版)

[調査の目的]

第三期（令和7年度～令和11年度）計画の策定にあたり、子育て支援に関するサービスの利用状況や今後の利用希望等を把握するため、アンケート調査を実施するものです。

[調査の概要]

(1) 調査対象者

① 就学前児童の保護者	1,200人
② 小学生の保護者	1,200人
③ 中学生の保護者	600人
④ 小学4年生～6年生本人	600人
⑤ 中学1年生～3年生本人	600人

(2) 調査方法

郵送配付・郵送回収及びインターネット回答

(3) 抽出方法

福生市在住0歳～15歳までのお子さんを住民基本台帳から無作為に抽出

(4) 調査期間

令和5年12月8日～令和5年12月28日

(5) 回収結果

	配布数	回答者数	有効回答率
就学前児童の保護者	1,200人	521人	43.4%
小年生の保護者	1,200人	348人	29.0%
中学生の保護者	600人	214人	35.7%
小学4～6年生本人	600人	155人	25.8%
中学1～3年生本人	600人	209人	34.8%
計	4,200人	1,447人	34.5%

参考：平成30年度調査結果

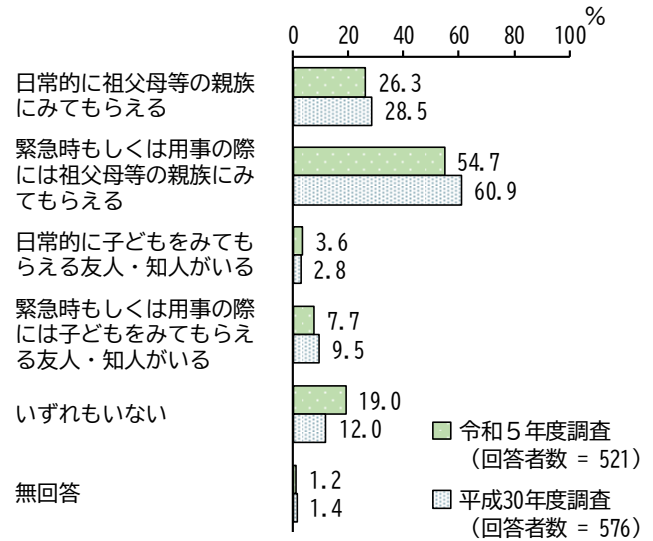
	配布数	回答者数	有効回答率
就学前児童の保護者	1,200人	576人	48.0%
小年生の保護者	1,200人	619人	51.6%
中学生の保護者	600人	300人	50.0%
小学4～6年生本人	600人	296人	49.3%
中学1～3年生本人	600人	300人	50.0%
計	4,200人	2,091人	49.8%

1 お子さんをご家族の状況について

子どもをみてもらえる親族・知人

- ・日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいるかについて、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が 54.7%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が 26.3%、「いずれもない」の割合が 19.0%となっています。
- ・平成 30 年度調査と比較すると、「いずれもない」の割合が増加しています。一方、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が減少しています。

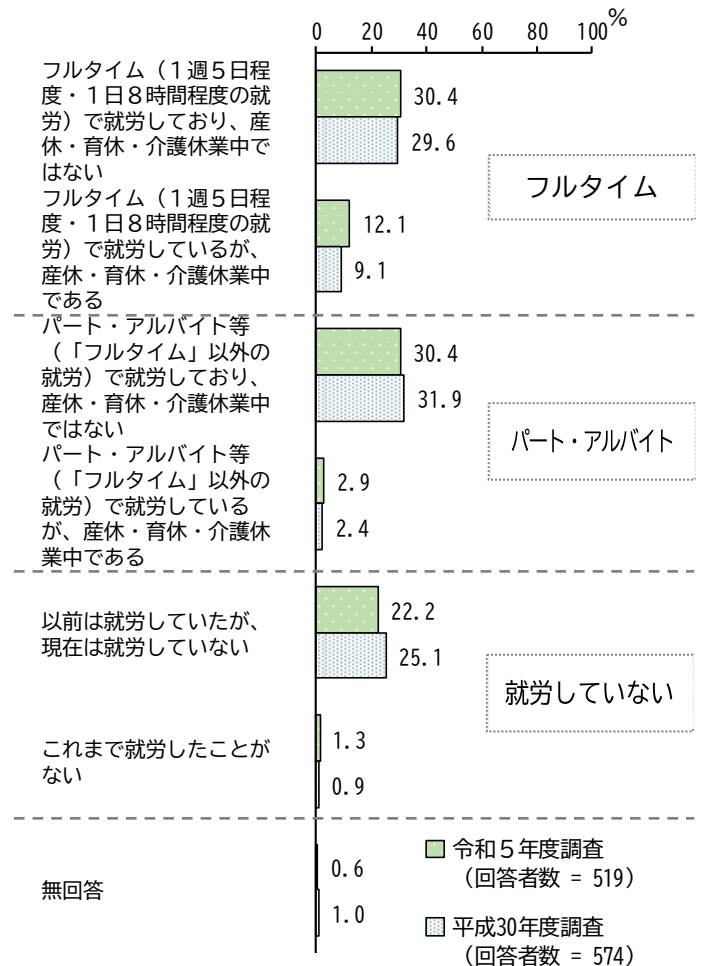
【就学前児童調査】



母親と父親の就労状況

- ・宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況について、母親は、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」の割合が 30.4%と最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が 22.2%となっています。
- ・平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。
- ・父親は、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・介護休業中ではない」の割合が 92.2%となっています。

【就学前児童調査・母親】

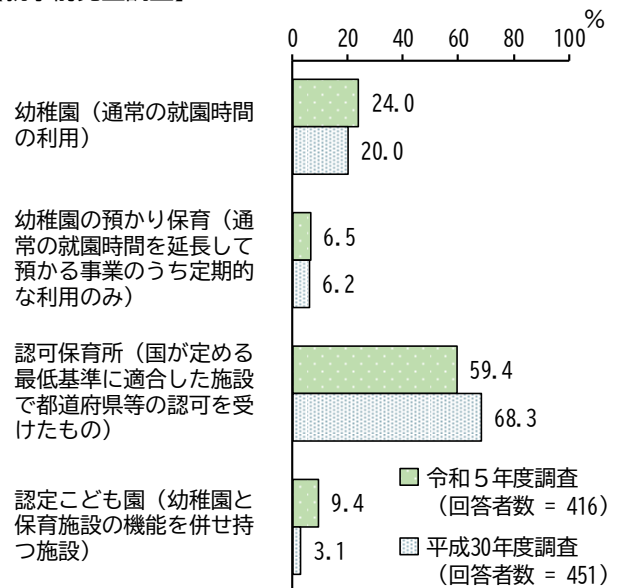


2 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

平日利用している教育・保育事業

- ・平日どのような教育・保育の事業を利用しているかについて、「認可保育所」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」の割合が 24.0%となっています。
- ・平成 30 年度調査と比較すると、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」の割合が増加しています。一方、「認可保育所（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」の割合が減少しています。

【就学前児童調査】

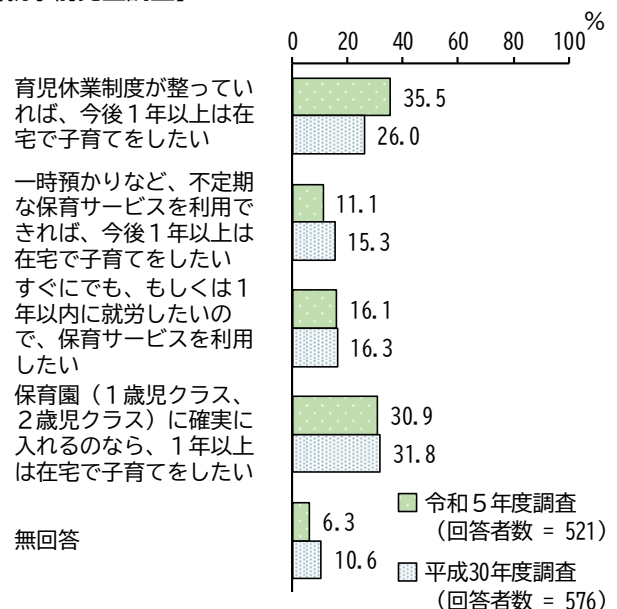


※主な施設・事業を抜粋しています。

0歳児のときの考え

- ・0歳児だったときのことを振り返り、あなたの考えに最も近いものは、「育児休業制度が整っていれば、今後1年以上は在宅で子育てをしたい」の割合が 35.5%と最も高く、次いで「保育園（1歳児クラス、2歳児クラス）に確実に入れるのなら、1年以上は在宅で子育てをしたい」の割合が 30.9%となっています。
- ・平成 30 年度調査と比較すると、「育児休業制度が整っていれば、今後1年以上は在宅で子育てをしたい」の割合が増加しています。

【就学前児童調査】

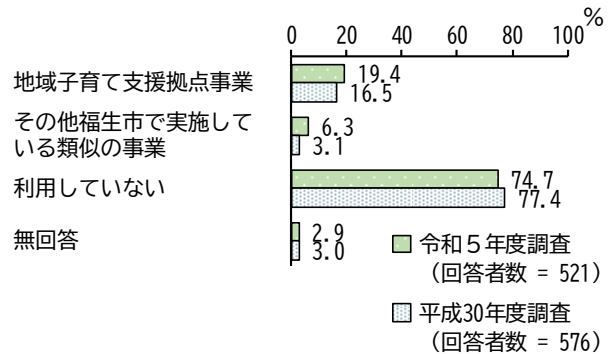


3 地域の子育て支援事業の利用状況について

地域子育て支援拠点事業の利用状況

- ・地域子育て支援拠点事業を利用しているかについて、「利用していない」の割合が 74.7%と最も高く、次いで「地域子育て支援拠点事業」の割合が 19.4%となっています。
- ・平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

【就学前児童調査】

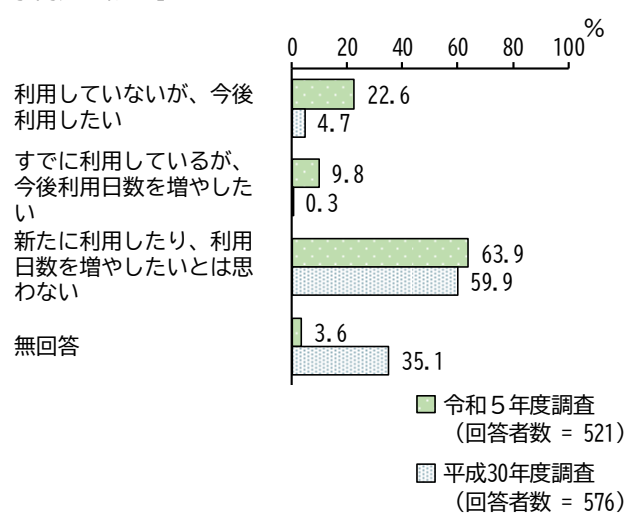


・「地域子育て支援拠点」…児童館の乳幼児対象事業や保育園で実施しているひろば事業、子育て相談事業です。

地域子育て支援拠点事業の利用希望

- ・地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思うかについて、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」の割合が 63.9%と高くなっています。
- ・平成 30 年度調査と比較すると、「利用していないが、今後利用したい」「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」の割合が増加しています。

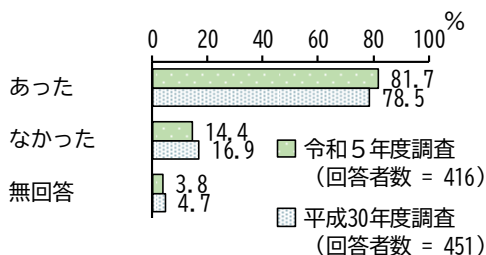
【就学前児童調査】



4 一時預かり等の短時間サービスについて

病気やケガで通常の事業が利用できなかった

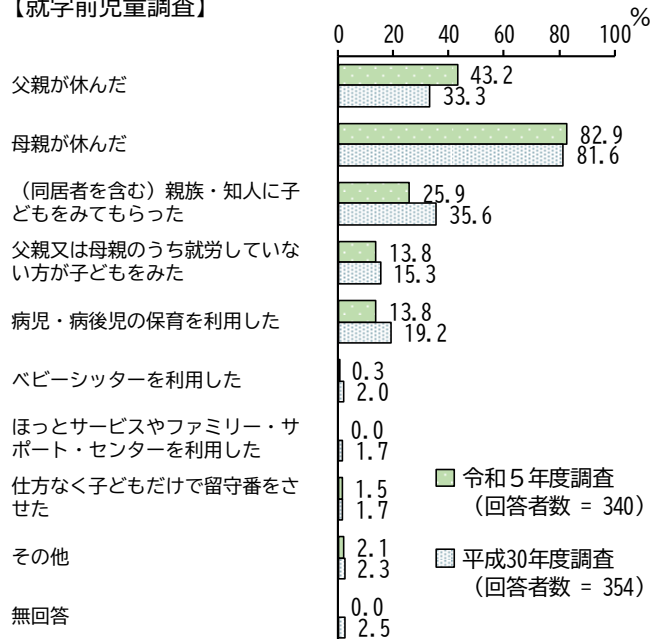
【就学前児童調査】



- ・1年間に、お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことが「あった」の割合が81.7%となっています。
- ・平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

主な対処方法

【就学前児童調査】

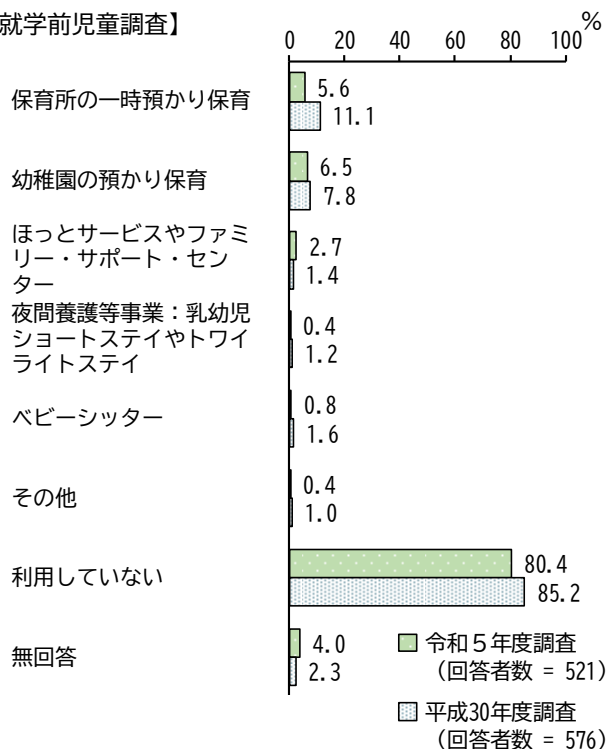


- ・お子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法として、「母親が休んだ」の割合が82.9%と最も高くなっています。
- ・平成30年度調査と比較すると、「父親が休んだ」の割合が増加しています。一方、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」「病児・病後児の保育を利用した」の割合が減少しています。

不定期の教育・保育事業の利用

- ・日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期的に利用している事業はあるかについて、「利用していない」の割合が80.4%と最も高くなっています。
- ・平成30年度調査と比較すると、「保育所の一時預かり保育」の割合が減少しています。

【就学前児童調査】

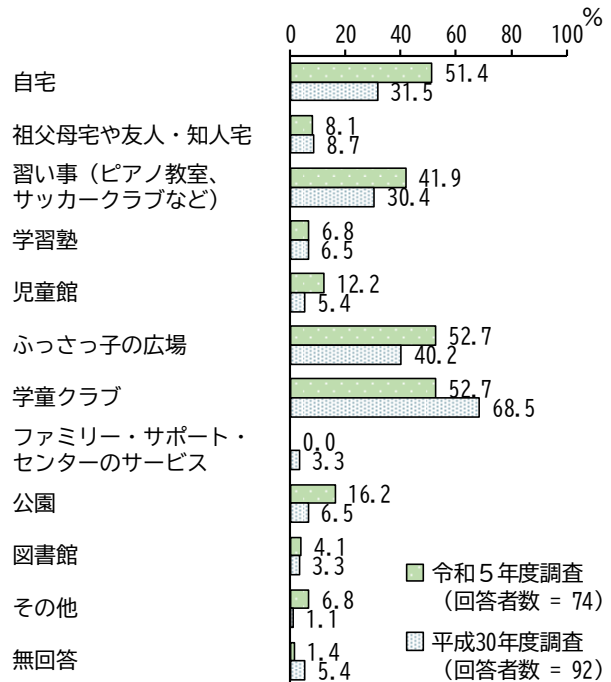


5 小学校就学後の放課後の過ごし方について

低・中学年（1～4年生）の希望

- ・お子さん（5歳）について、小学校にあがってからの放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいかについて、低・中学年（1～4年生）では、「ふっさっ子の広場」、「学童クラブ」の割合が52.7%と最も高く、次いで「自宅」の割合が51.4%となっています。
- ・平成30年度調査と比較すると、「自宅」「習い事（ピアノ教室、サッカークラブなど）」「児童館」「ふっさっ子の広場」「公園」の割合が増加しています。一方、「学童クラブ」の割合が減少しています。

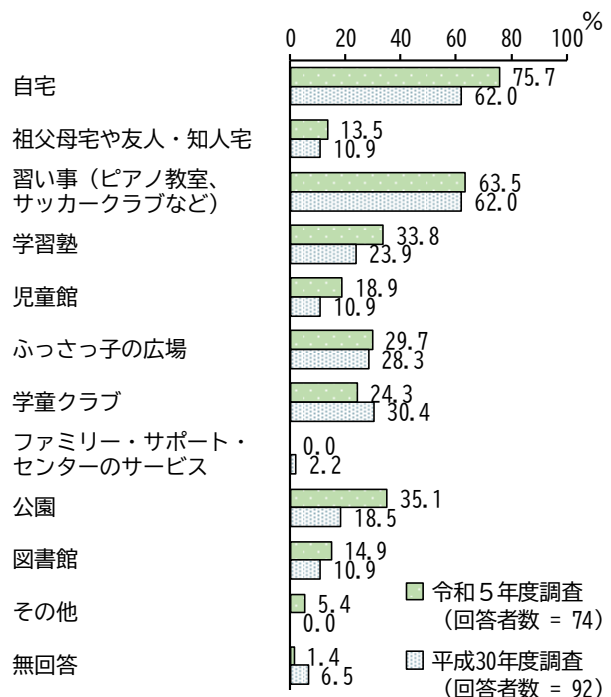
【就学前児童調査】



高学年（5～6年生）の希望

- ・お子さん（5歳）について、小学校にあがってからの放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいかについて、高学年（5～6年生）では、「自宅」の割合が75.7%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブなど）」の割合が63.5%、「公園」の割合が35.1%となっています。
- ・平成30年度調査と比較すると、「自宅」「学習塾」「児童館」「公園」の割合が増加しています。一方、「学童クラブ」の割合が減少しています。

【就学前児童調査】



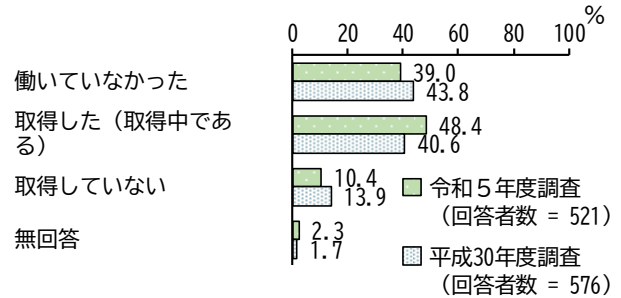
- ・「学童クラブ」…保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。
- ・「ふっさっ子の広場」…放課後に小学校内の施設や校庭を利用し、安全な見守りの中で、子どもが安心して楽しくすごせる「学び・体験・交流」の場です。

6 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

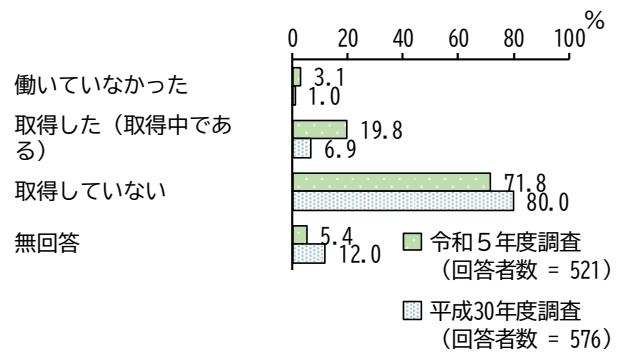
育児休業の取得状況

- ・育児休業を「取得した（取得中である）」の割合が母親は48.4%、父親は19.8%となっています。
- ・平成30年度調査と比較すると、母親と父親どちらも「取得した（取得中である）」の割合が増加しています。
- ・母親の取得期間は、「301日～400日」の割合が34.5%と最も高く、次いで「201日～300日」の割合が13.5%となっています。

【就学前児童調査・母親】



【就学前児童調査・父親】



7 子ども本人調査について

若者向けに福生市に必要な場所

【小学生本人調査・中学生本人調査】

	件数	大きな音（楽器演奏など）を出してもよい場所	思いっきり身体を動かせる場所	気軽にしゃべりできる場所	自分のなやみ相談に乗ってくれる場所	趣味仲間が自由に集まれる場所	インターネットが自由に使える場所	静かに勉強したり本が読める場所	その他	特にない	無回答
小学生本人	155	15.5	47.7	23.9	3.9	30.3	28.4	18.1	13.5	11.0	5.8
中学生本人	209	18.2	39.7	22.0	4.8	30.1	28.2	20.6	11.5	15.3	2.9

- ・若者向けにどんな場所がもっと福生市にあればよいと思うかについて、小学生本人調査では、「思いっきり身体を動かせる場所」の割合が47.7%と最も高く、次いで「趣味仲間が自由に集まれる場所」の割合が30.3%、「インターネットが自由に使える場所」の割合が28.4%となっています。
- ・中学生本人調査では、「思いっきり身体を動かせる場所」の割合が39.7%と最も高く、次いで「趣味仲間が自由に集まれる場所」の割合が30.1%、「インターネットが自由に使える場所」の割合が28.2%となっています。

8 子育て全般について

子育てで不安や負担と感ずること

【小学生調査・中学生調査】

	件数	子どもの健康に不安がある	子どもの発育・発達に不安がある	子どもの食事や栄養に不安がある	子どもの教育に不安がある	学校での教育内容が変わってきていることに不安がある	子どものしつけに不安がある	子どもの友だちつきあいに不安がある	子どもの将来の進路について不安がある	配偶者の協力が少ない	配偶者と子育ての意見が合わない	子育てにかかる経済的な負担が大きい	子育ての大変さを身近な人が理解してくれない	手伝ってくれる人がいない	地域の子育て支援サービスの内容や利用・申込方法がよくわからない	住宅が狭い	相談相手がない	その他	不安や負担などは感じない	無回答
小学生	348	6.9	19.5	16.4	32.2	14.1	24.1	33.9	28.4	8.3	7.5	40.5	2.6	6.9	2.9	13.2	2.3	3.4	12.6	5.5
中学生	214	9.8	13.6	8.9	35.5	11.7	16.8	19.2	45.8	6.1	6.1	45.8	1.9	3.7	4.7	10.7	2.3	6.1	13.6	2.8

子育てで必要な支援・対策

【就学前児童・小学生調査・中学生調査】

	件数	地域における子育て支援の充実	保育サービスの充実	子育て支援のネットワークづくり	活動拠点の充実	地域における子どもの妊娠・出産に対する支援	乳児の育児に対する支援	子どもの教育環境	子育てしやすい住居・まちの環境面での充実	仕事と家庭生活の両立	犯罪・事故の軽減	子どもを対象にした	特別な支援を要する児童への支援	特別な支援を要する児童のための療育施設の設定	不妊治療費等の助成	その他	無回答
就学前児童	521	29.2	31.5	5.8	10.6	19.2	17.1	23.2	23.8	34.9	13.1	5.6	3.8	5.0	4.4	13.1	
小学生	348	27.9	10.9	5.7	22.1	7.5	4.9	38.5	27.0	31.9	23.9	10.9	8.0	5.2	4.6	10.6	
中学生	214	30.8	13.1	8.9	22.0	7.0	3.3	40.2	25.7	36.9	24.8	12.6	7.0	4.7	4.7	6.1	

子育てしやすいまちか

【就学前児童・小学生調査・中学生調査（令和5年度調査）】

	件数	そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
就学前児童	521	24.0	50.7	11.5	2.9	8.6	2.3
小学生	348	23.3	36.8	16.4	7.8	11.8	4.0
中学生	214	15.9	48.6	12.6	6.1	13.6	3.3

【就学前児童・小学生調査（平成30年度調査）】

	件数	そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
	576	26.9	46.7	9.9	3.0	11.8	1.7
	616	22.6	46.9	12.0	3.9	12.0	2.6
	300	21.3	40.7	12.0	5.3	15.7	5.0

- ・子育てに関して、不安や負担などを感じることは、小学生調査及び中学生調査では、「子育てにかかる経済的な負担が大きい」が最も高くなっています。また、子育てをする中で、どのような支援・対策が有効と感じているかについて、就学前児童調査では、「仕事と家庭生活の両立」が最も高く、小学生調査及び中学生調査では、「子どもの教育環境」が最も高くなっています。
- ・福生市は子育てしやすいまちだと思いますかについては、“子育てしやすいまちだと思う”は60%を超えています。平成30年度調査と比較すると、就学前調査及び中学生調査では増加しています。一方、小学生調査では減少しています。